

平成21年6月

理想の会社を目指して

人は年齢を重ねると人間が丸くなるのか、穏やかになるのか言われていますが私にはどうもそうとは思えません。人は歳をとると強欲になり、性格が悪くなるのではないかと思っています。マスコミで報道される巨額脱税で「あんな立派な人が何故そんなことを」とか、株取引やデリバティブ取引による巨額損失では「あんな堅実経営をしていた人が何故そんなことを」とか「魔がさしたかと思えない」とか言われるケースがよくあります。その他にも政治家のうそ、官僚の天下り、汚職は絶えません。人は最初に大きな志を持って政治家や役人になったはずなのに地位や名誉、お金が手に入ると人格が悪くなっていきます。立派な人と言われた人でも肉題を起したときには、その肉題を起す人格になり下がっていると考えたほうが私にはわかりやすいです。皆様はどうでしょうか。ではどうしてか、地位やお金が貯っても人間性を高められるかという点、松下幸之助さんや稲盛和夫さんの本を読むと「毎日々反省する時間を持つことである」と書かれています。凡人である我々ができることは、経営ビジョン、経営理念を掲げ、社長が先頭に立って実践することではないでしょうか。私は人格が低いものですから、私の器で社員を引っ張ることは出来ないと確信しております。しかし、経営ビジョンなど、社員がワクワクしながら仕事をして世の中に貢献したいと思えるおな人材に育ててくれるのではないかと思っています。そのために社員にわかりやすいビジョンを作成し、社長はビジョンの実現に向かって一番熱心に努力している人であればよいのではないかと、人格はそれほど簡単には高められません。ビジョン、理念の実現のために誰よりも努力することは、私でも、二代目の経営者でも出来るのではないのでしょうか。

いい会社というのは、働いている社員の姿がいきいきしていること、現場が重視され、現場からお客様に喜んでくれるアイデアが提案され、実行されることではないでしょうか。社員のモチベーションのあげ方として、ボトムアップの経営が言われますが、一般的には、賃金や評価と連動した「物やお金中心のボトムアップ」が主流です。これのみですと、全て自分中心の仕事となり、社員同士で支え合うとかお客様への心のこもったサービスは2の次になるのではないのでしょうか。それよりも全社員がビジョンや理念を共有し、ビジョン、理念のために働くこと、仲間のため、会社のため、お客様のためにやる気になって最高のモチベーションに達するのではないかと、思います。私はこれを「心のボトムアップ」と言っています。中小企業は何故それほどいいかと言いますと、企業の目的を働いてくれている人を幸せにすることとはっきり明言することが出来るからではないでしょうか。これを実現するために経営ができる、率先垂範できる、勉強できる、小さな会社ですけど心の温かい会社をつくれる、お客様のため、社会のために微力でせめて行動できる、こんな幸せなことはないのではないかといつも感じています。一生は一度ですから、思いきり、他人の思惑など気にせず、理想の会社を目指して、人様に語り、社員に熱く語り、言っていることと現実のギャップにも目を合わせ、たぐひたぐひつき進むそのおな人生にします。

古田上 満